

ありがとう

We thank You, Jesus.
You are so good to us!



いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。
その中で一番すぐれているのは愛です。
コリント人への手紙第一13章13節

A. D. 1999. 3. 20

野町真理・敦子

真理
Shinri

敦子
Atsuko

信仰

神など必要ないと思いながら自分の事だけを考えて生きていた時、孤独で空しさがありました。20歳の時、友人を通してイエス・キリストの十字架の愛を知りました。復活して今も生きておられるキリストとの出会いの中で、生かされている感謝と喜びが溢れてきました。

何かに秀でていれば認められると思い、人への関心と親切を犠牲に過ごして来た日々。それがもたらす悲しみを知った時、人間を造られ、愛された神への無関心という罪に気づきました。十字架の上で、人の罪を執り成してくださったイエス様の祈りが私のためであるとわかった時、心に平安が生まれました。

希望

一度しかない人生を永遠に価値のあることのために用いたい。ただ神の栄光のために教会という焼けたい建物と共に建て上げ、暗闇の中を歩んでいる人々に希望の光であるキリストを伝えたい。その思いは消えることなく、私の心の中に静かに灯っています。「もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。」(新約聖書・コリント人への手紙第一3章14節)

福音を伝えるために私費で日本に来たシンガポールの学生たちとの出会い。新約聖書・使徒の働き20章35節「受けるよりも与えるほうが幸いである。」という御言葉により、イエス・キリストの福音を与えるものにさせて頂きたいと願うようになりました。

愛

愛が深まると相手の喜びだけではなく、苦しみも共にしたいと思うものです。神様の喜びを共に喜び、神様の苦しみも共に苦しみたい。それが私のような者のために命を捨ててくださった神様に対する私の願いなのです。「敦子さん。福音のために私と苦しみを共にしてくれませんか？」私のプロポーズに答えてくれた敦子さんと一緒に、神の力によって、福音のために喜びも苦しみも共にしていきたいと思えます。(新約聖書・テモテへの手紙第二1章8節)

真理さんを紹介されてから、神様はこの結婚を導いておられるのか、神様からの答えが頂けるよう聖書を読み、時間をかけて祈りました。半年後に、ようやくお見合い。緊張しながらのデートが始まりましたが、ゆっくりと愛を育ててきました。両親に話す勇気がなかった私ですが、イエス様を愛し高価なナルド油の入った壺を割ったマリヤの話(新約聖書・マルコの福音書14章3~9節)からのメッセージを聞き、壺を割る勇気も与えられました。